

北海道 6圏域の特色等について

目次

1	6 圏域の特色等について	・ ・ 1
(1)	各圏域等の現況について	・ ・ 1
	6 圏域	・ ・ 1
	人口	・ ・ 2
	産業	・ ・ 3
	商業	・ ・ 5
	農業	・ ・ 6
	観光	・ ・ 7
(2)	圏域間の人流・物流動向について	・ ・ 8
	圏域間の人流	・ ・ 8
	圏域間の物流	・ ・ 13
2	人口推計	・ ・ 17
(1)	圏域別等人口推計	・ ・ 17
(2)	都市部地方部別人口推計	・ ・ 18

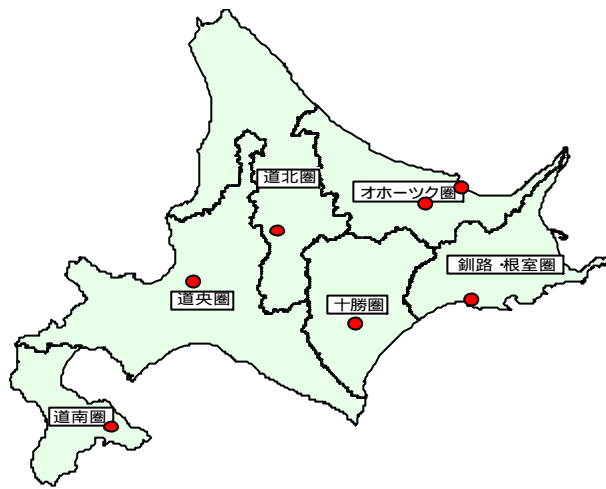
1 6 圏域の特色等について

(1) 各圏域等の現況について

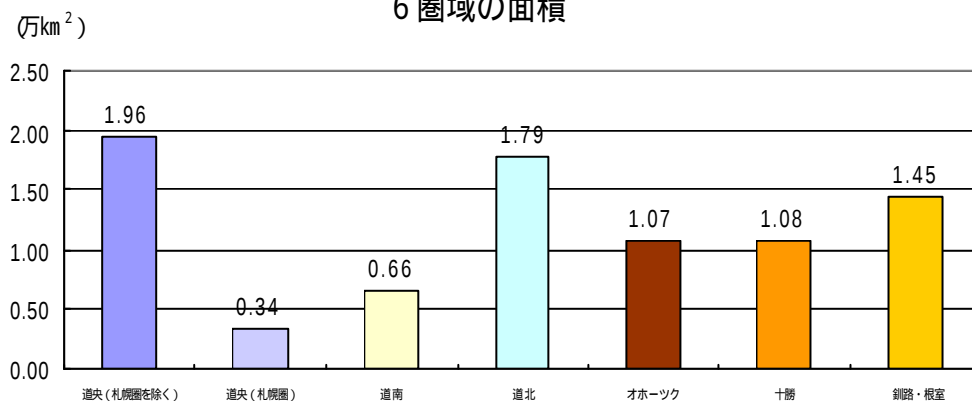
6 圏域

第6期北海道総合開発計画では、広大な国土を有している北海道を、恵まれた資源の活用や各地域の特性を生かした主体的な経済社会活動を展開する観点から、道央、道南、道北、オホーツク、十勝及び釧路・根室の6つの圏域（以下「6 圏域」という。）に区分し、施策の展開を図ることとしている。

6 圏 域 の 区 分



6 圏域の面積



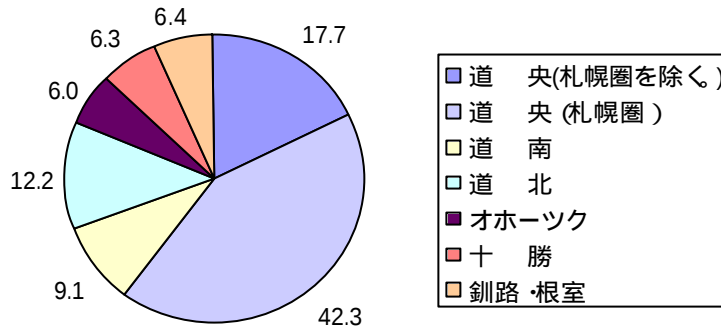
出典 : 国土地理院 「全国都道府県市区町村別面積調」(2000年10月1日現在)

注 : 「札幌圏」は、第3回道央都市圏パーソントリップ調査(1994年)において調査対象地域(都市圏)とされた札幌市、小樽市、恵庭市、石狩市、北広島市、江別市、千歳市、長沼町、南幌町、当別町。

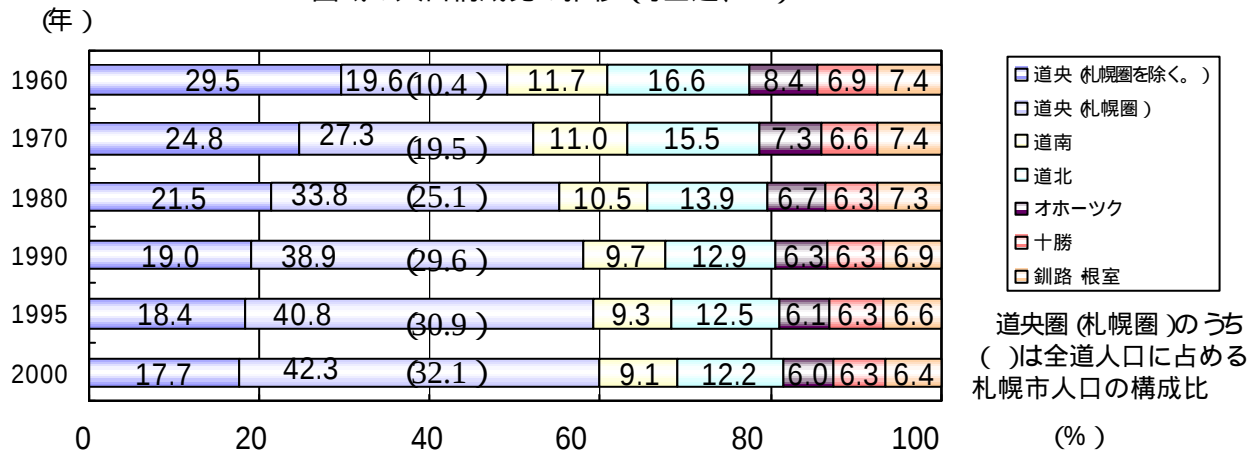
人口

6 圏域の人口状況をみると、道央圏に約60%が集中し、そのうち札幌圏に半分以上（全道の約42%）が集中し増加傾向にある。その他の圏域では、道北圏で約12%、道南圏、オホーツク圏、十勝圏及び釧路・根室圏で10%以下となっている。

6圏域の人口構成比（対全道、%：2000年）



6 圏域の人口構成比の推移（対全道、%）



参考：全道人口 568.3万人
札幌市人口 182.2万人

出典：総務省統計局「国勢調査」

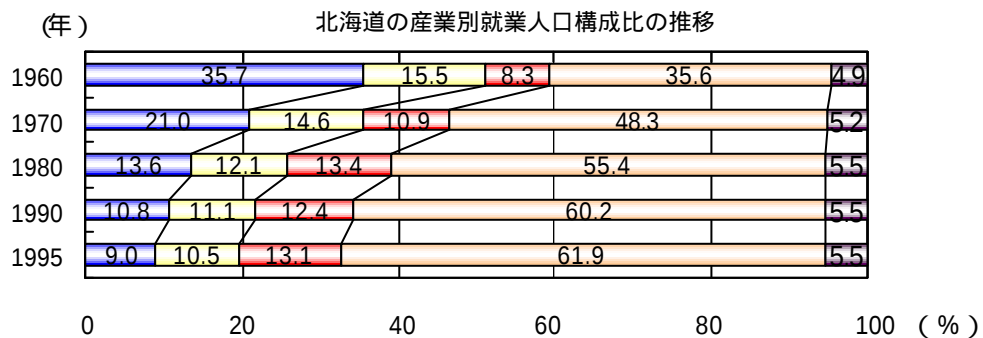
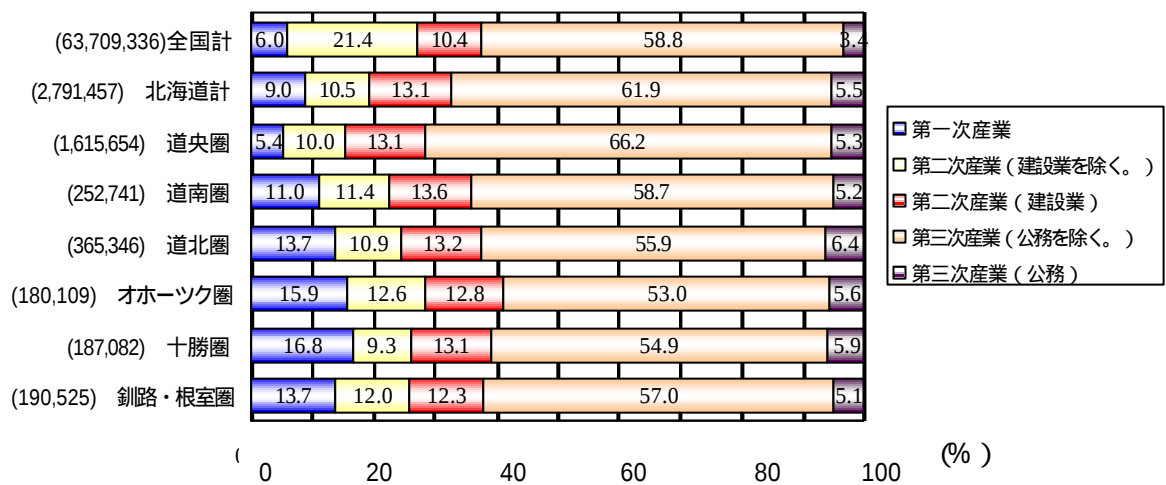
産業

6 圏域の産業の特色を産業別就業人口割合でみると、道央圏で第三次産業の割合が特に高い一方で第一次産業の割合が低く、その他の圏域ではオホーツク圏、十勝圏を始めとして第一次産業の割合が高い。

近年35年間の推移をみると、第一次産業の割合が低くなり、第三次産業の割合が高くなっている。

()は就業者数(分類不能を除く)

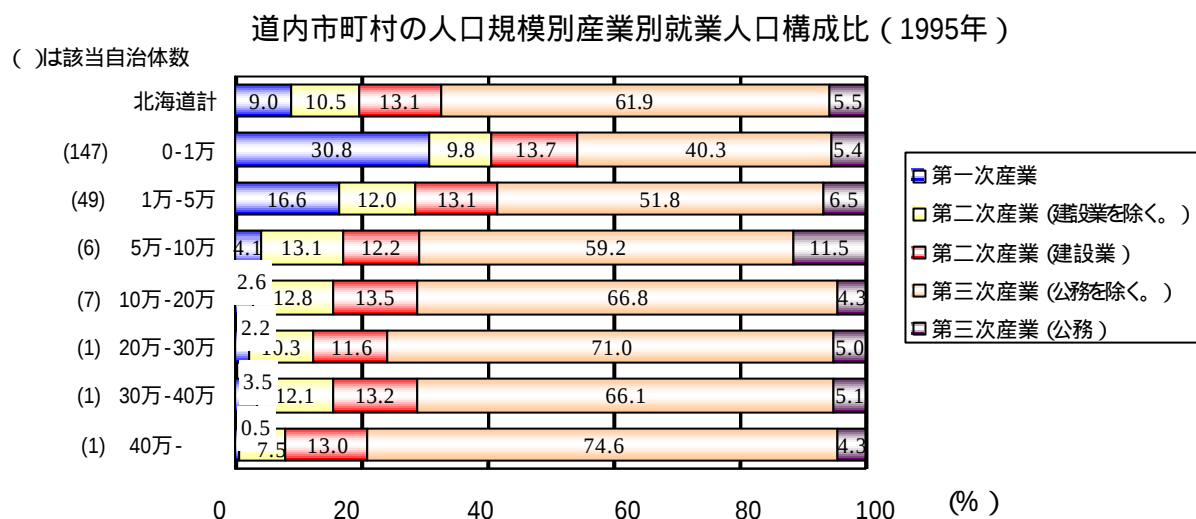
6 圏域等の産業別就業人口構成比(1995年)



(参考 道内市町村人口規模別就業人口割合)

道内市町村の人口規模別産業別就業人口割合の特色をみると、1万人未満の市町村では、第一次産業の割合が30%以上と高い一方、5万人以上の市では第一次産業の割合が5%以下と低くなっている。

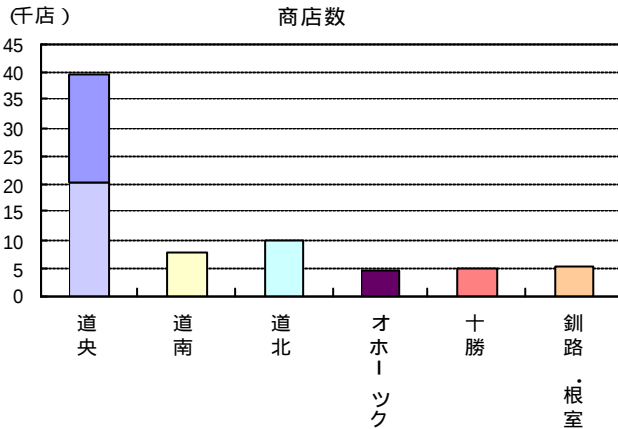
建設業の割合は、全ての類型を通じて概ね全道平均13%に近い割合となっている。



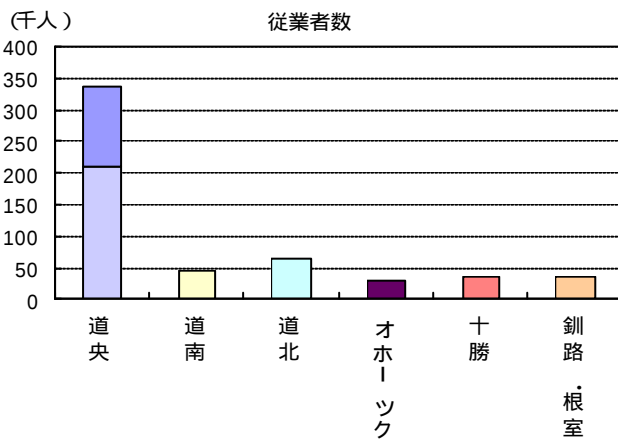
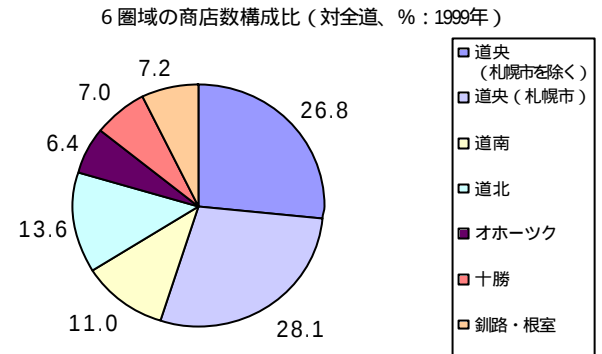
出典 総務省統計局「国勢調査」

商業

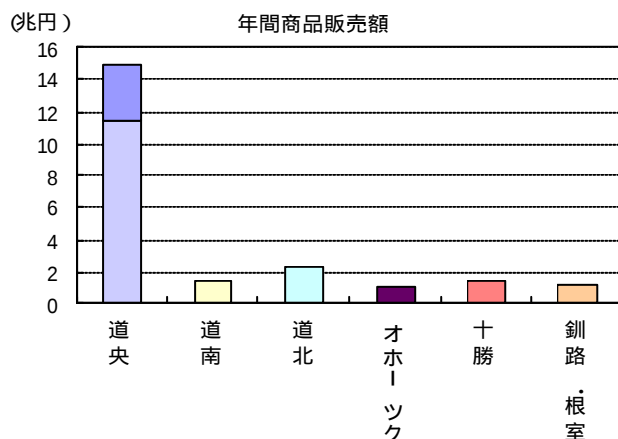
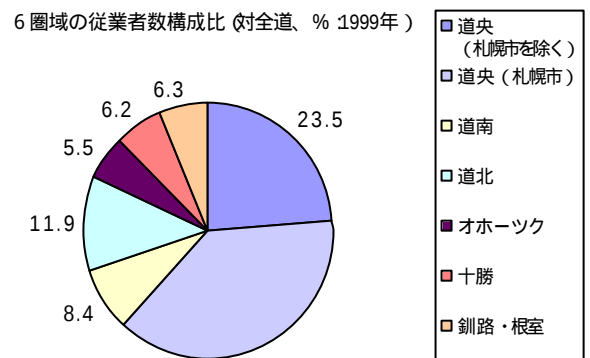
6 圏域の商業の集積を商店数、従業者数、年間商品販売額でみると、道央圏が全道の半数を超え、そのうち、札幌市が半数を超えている。特に、商品販売額では札幌市が全道の約 5 割を占める。



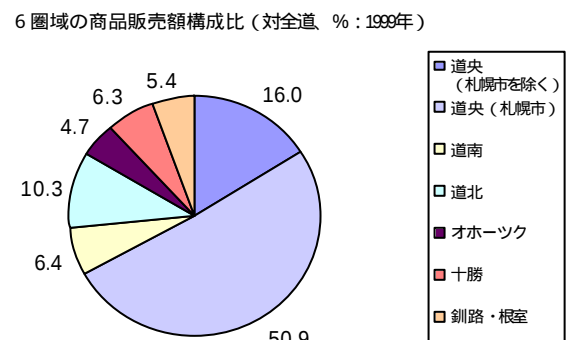
参考：全道商店数72千店



参考：全道従業員数547千人



参考：全道年間商品販売額22兆円



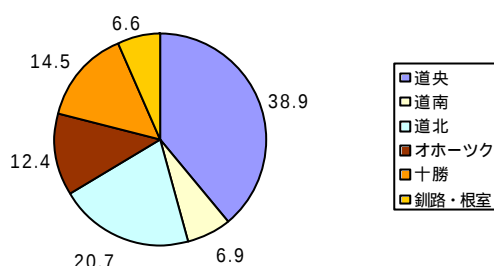
出典：北海道「北海道統計書」

注：商店数、従業者数、年間商品販売額は、卸・小売業の総数である。

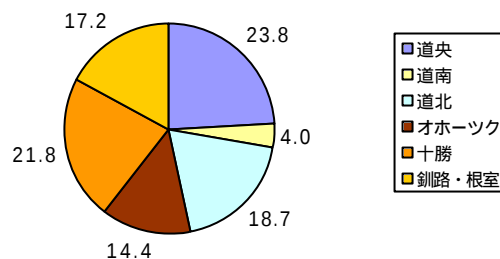
農業

全道における6圏域の農業就業人口構成比をみると、道央圏、道北圏の比率が高く、道南圏、釧路・根室圏の割合が低くなっている。
 一戸当たり耕地面積及び一人当たり農業粗生産額をみると、十勝圏、釧路・根室圏が多く、道央圏、道南圏、道北圏が少なくなっている。

6圏域の農業就業人口構成比(対全道比、%：2000年)



6圏域の耕地面積構成比(対全道比、%：2000年)

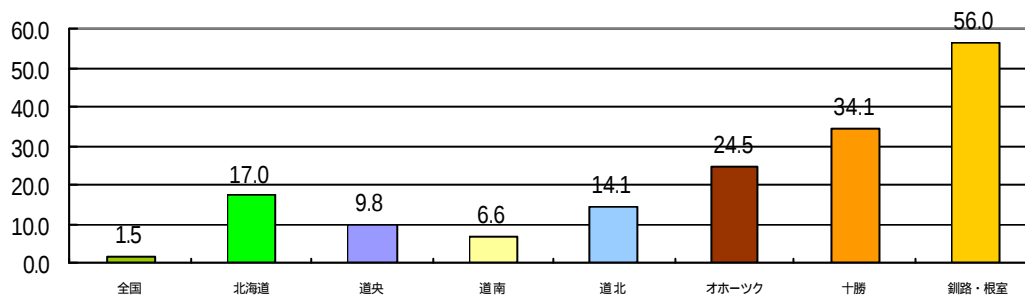


参考：全道農業就業人口 152,387人

参考：全道耕地面積 1,185,000ha

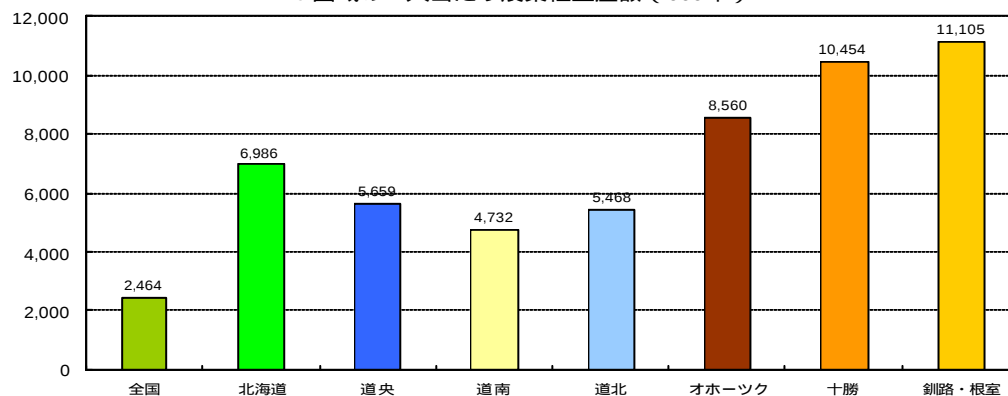
(ha/戸)

6圏域の一戸当たり耕地面積(2000年)



(千円/人)

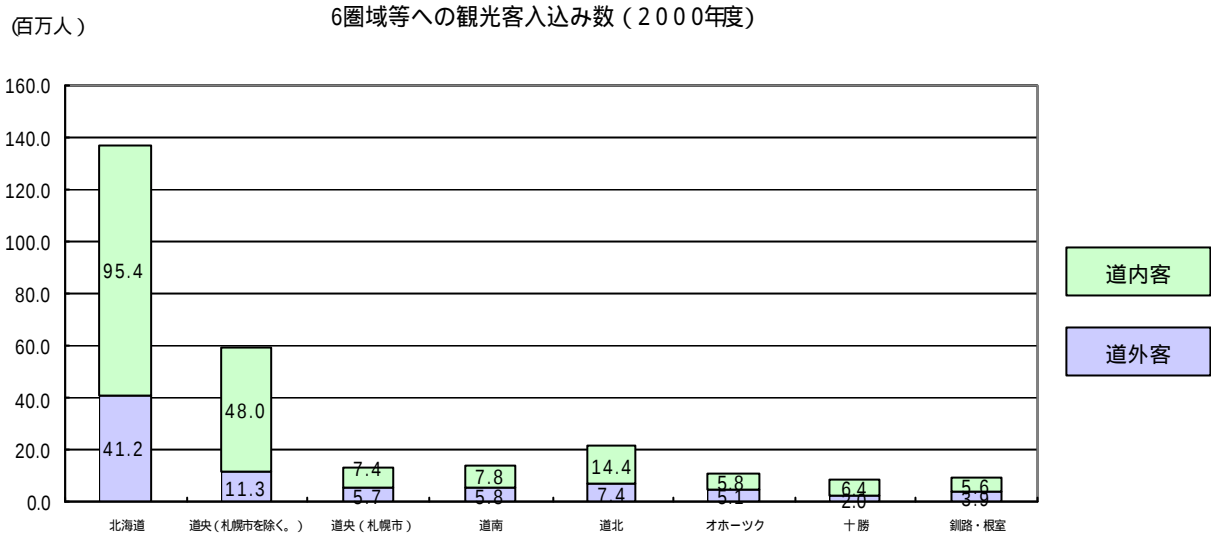
6圏域の一人当たり農業粗生産額(1999年)



出典：北海道「北海道統計書」
 農林水産省「北海道農林水産統計年報」

観光

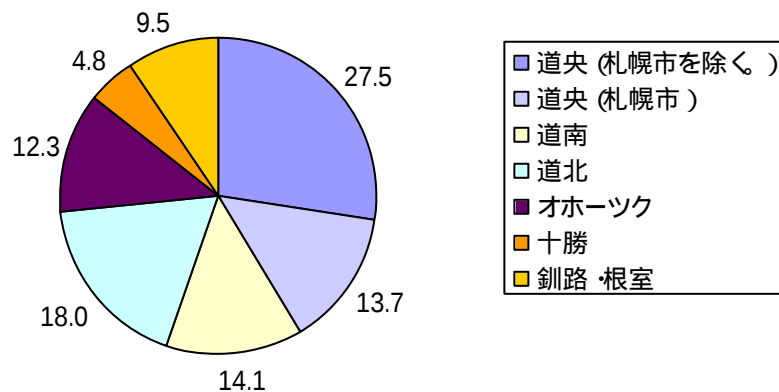
6 圏域別の観光客入込み数をみると、全道観光客入込み数の半分以上が道央圏に集中し、また、道外観光客の圏域別入込み数をみると、道央圏が4割を超えている。



出典 北海道経済部「観光入込客数調査報告書」

注 入込み数は延べ人数。四捨五入をしているため、合計値と一致しない。

北海道への道外観光客の6圏域別入込み数構成比
(対全道、% 2000年度)



出典 北海道経済部「観光入込客数調査報告書」

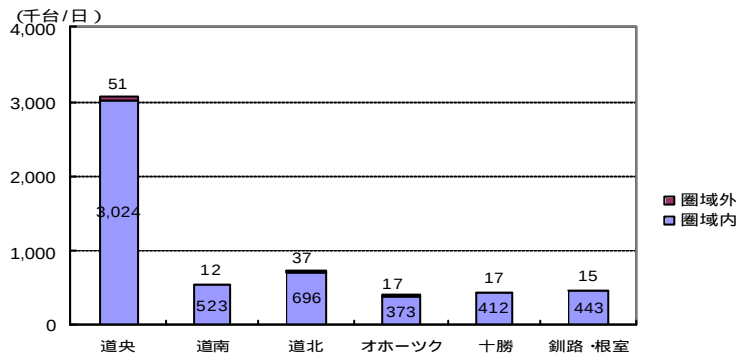
注 四捨五入の関係で100にならない。

(2) 圏域間の人流・物流動向について 圏域間の人流

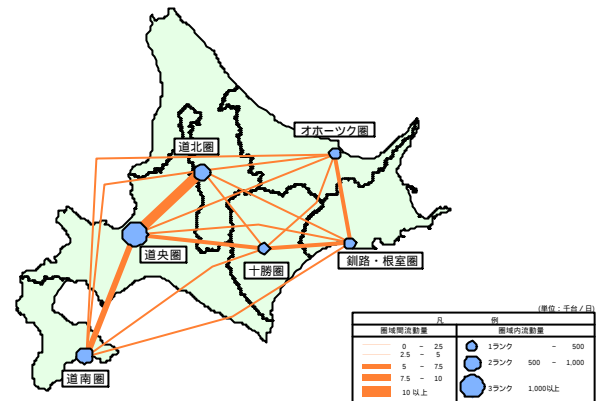
6 圏域間の自動車交通流動をみると、平日、休日ともに道央圏と道南圏、道北圏、十勝圏との流動が多く、また 釧路・根室圏とオホーツク圏、十勝圏との流動が多くなっている。

○ 平日

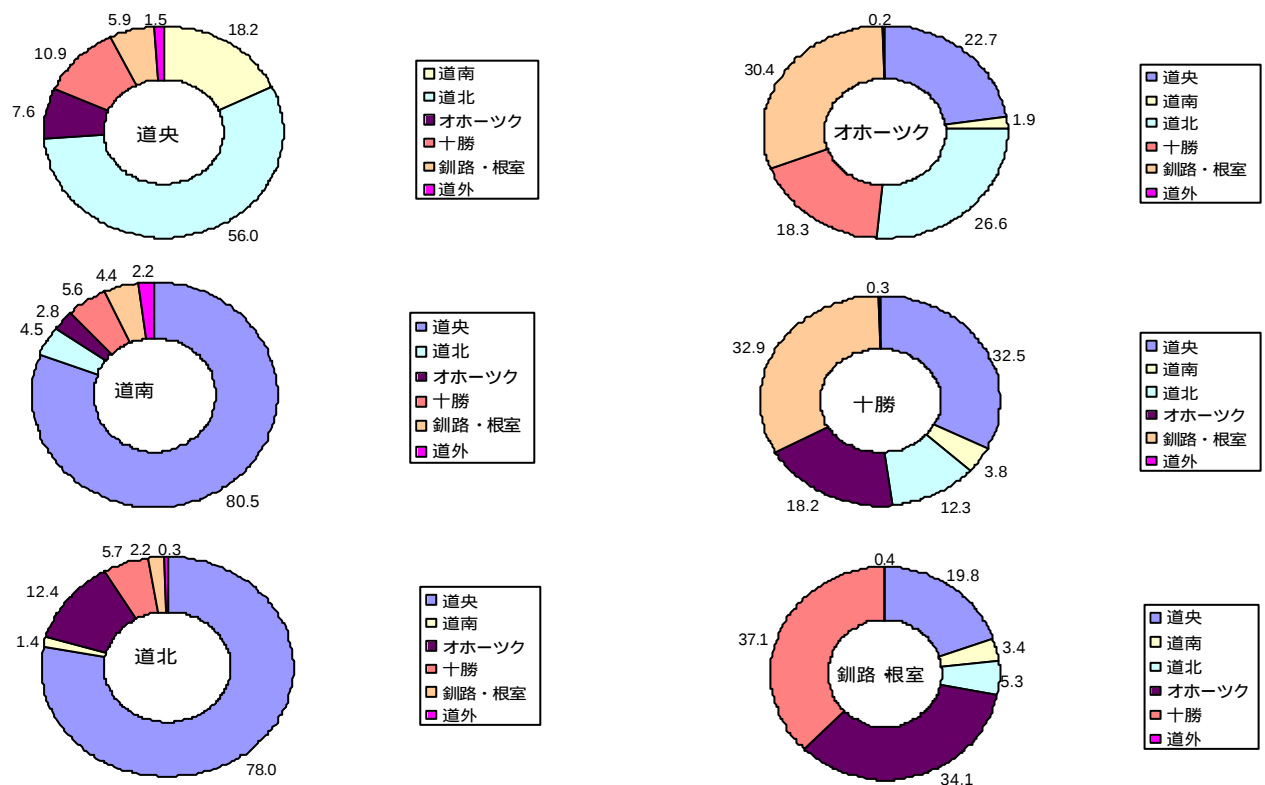
6 圏域別総流動



6 圏域の圏域内流動・圏域間流動状況



6 圏域の圏域別圏域間流動構成比 (%)



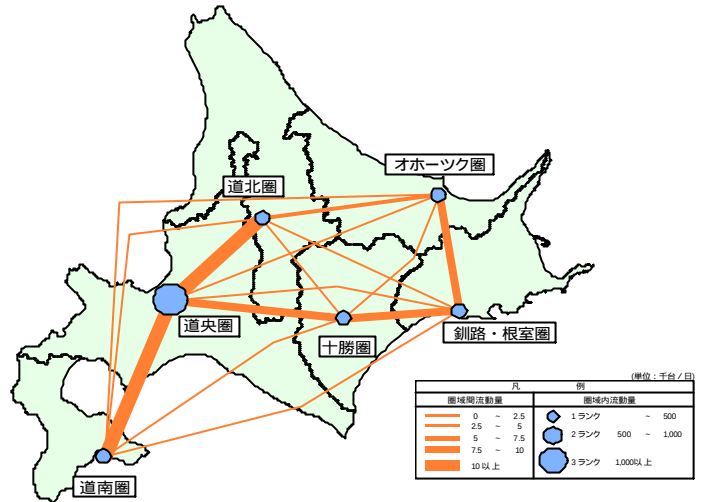
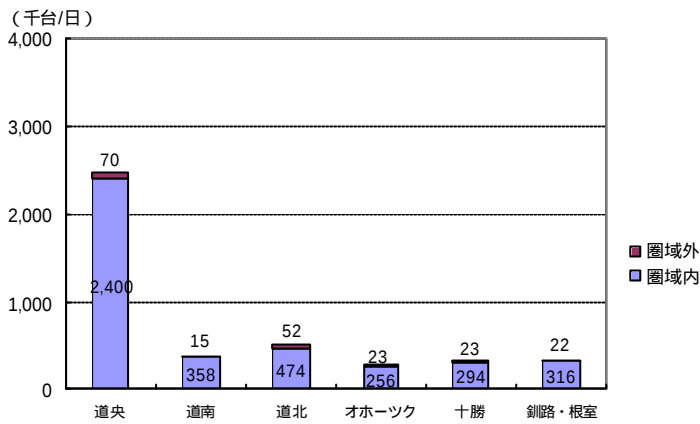
出典 : 国土交通省「平成11年道路交通センサス」

注 : 自動車交通の対象は軽乗用車、乗用車、バス。

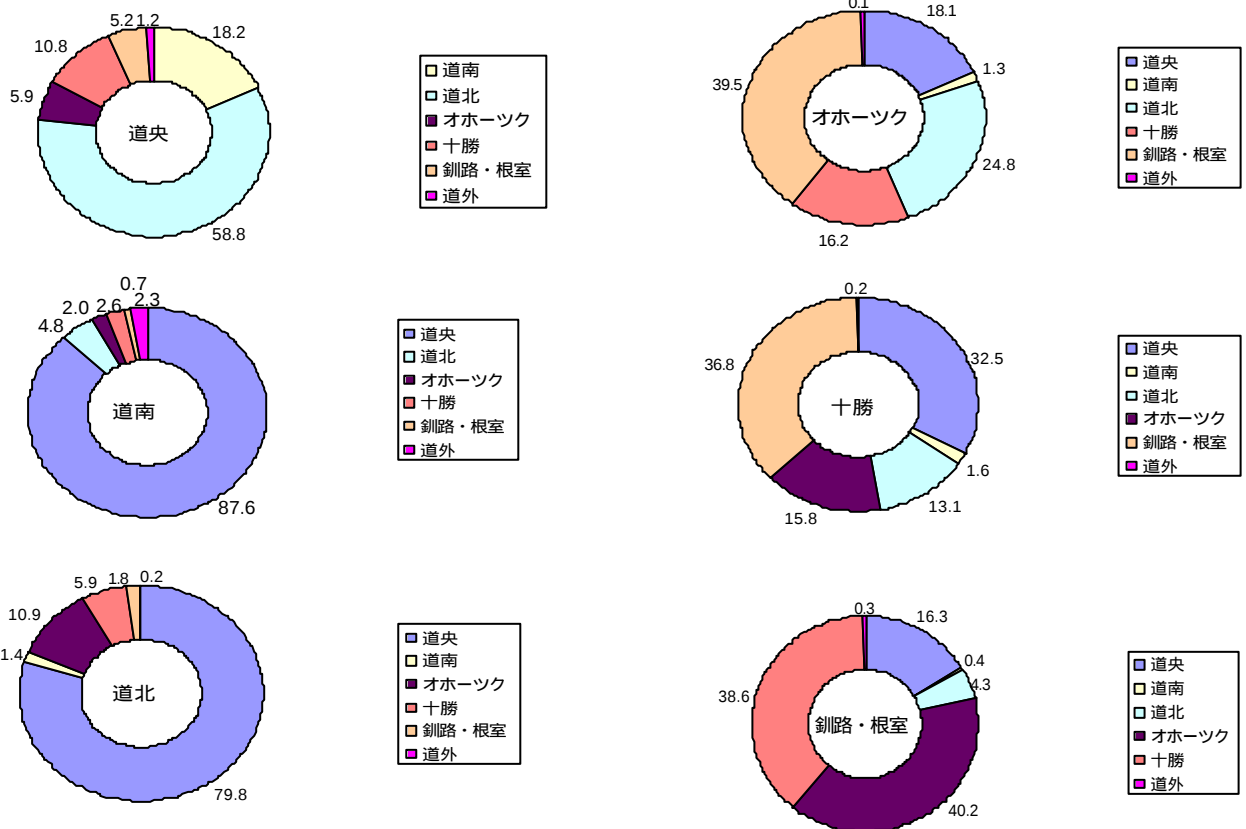
○休日

6 圏域別総流動

6 圏域の圏域内流動・圏域間流動状況



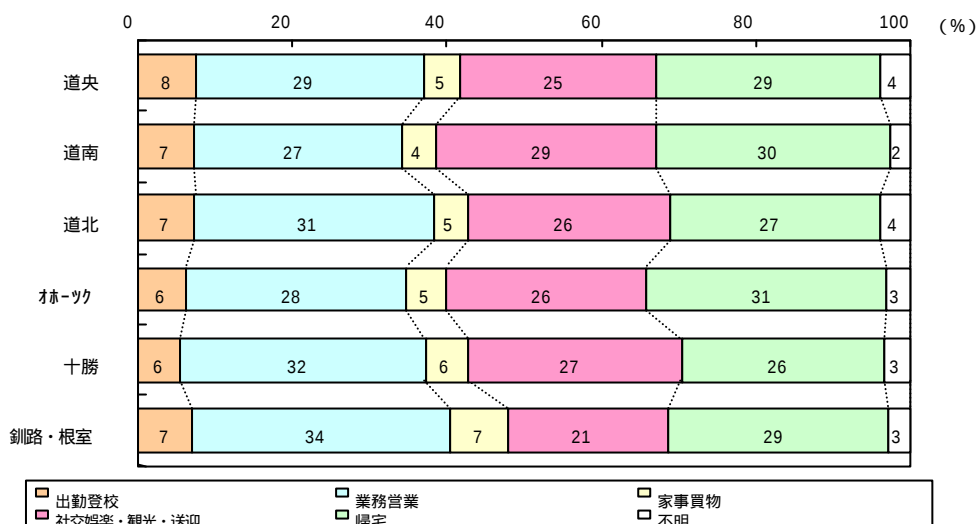
6 圏域の圏域別圏域間流動構成比 (%)



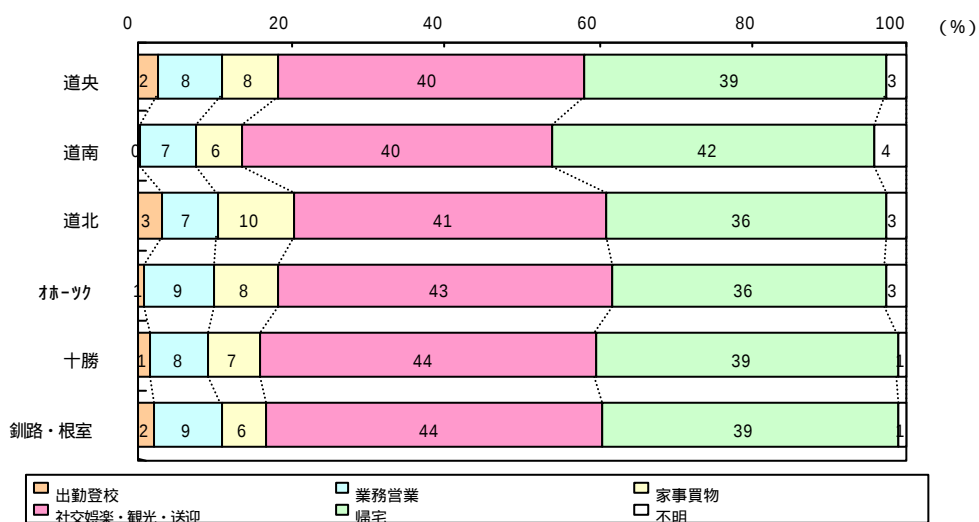
出典: 国土交通省「平成11年道路交通センサス」
 注: 自動車交通の対象は軽乗用車、乗用車、バス。

圏域間の自動車交通流動を目的別にみると、平日は「業務営業」「帰宅」が多く、
休日は「社交娯楽・観光・送迎」「帰宅」が多くなっている。

6 圏域の圏域間流動目的構成比（平日）



6 圏域の圏域間流動目的構成比（休日）



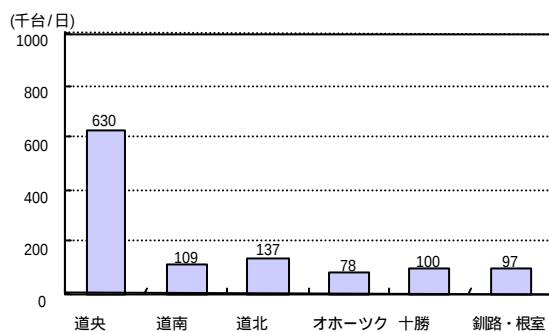
出典：国土交通省「平成11年道路交通センサス」

注：自動車交通の対象は軽乗用車、乗用車、バス。

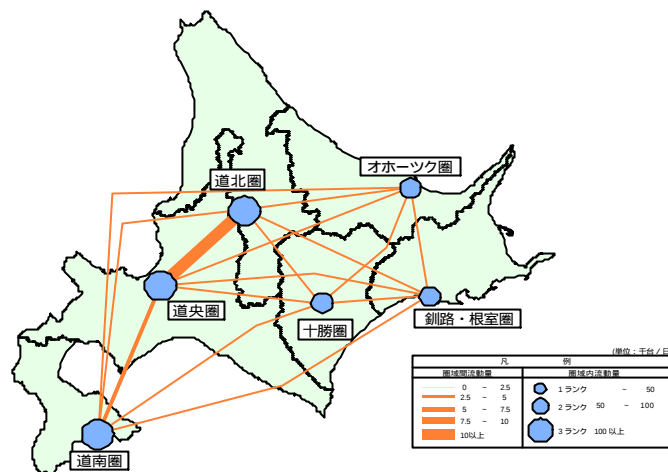
(参考) 観光交通の流動

観光に関する自動車交通流動をみると、道央圏と道南圏、道北圏、十勝圏との流動が多く、また、釧路・根室圏とオホーツク圏、十勝圏との流動が多くなっている。

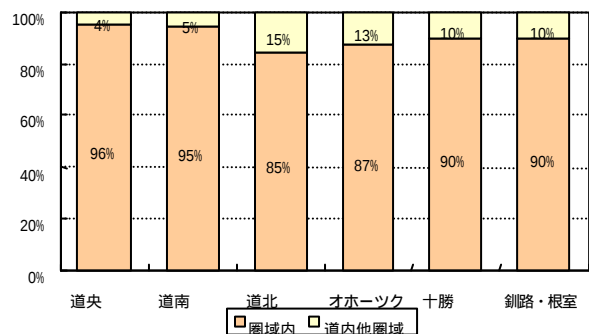
6 圏域別総流動 (休日・観光)



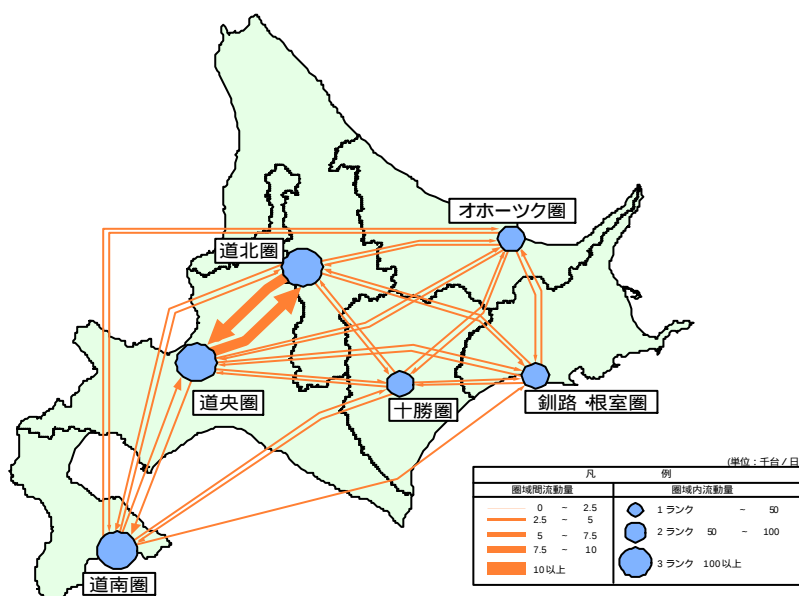
6 圏域の圏域内流動・圏域間流動状況 (休日・観光)



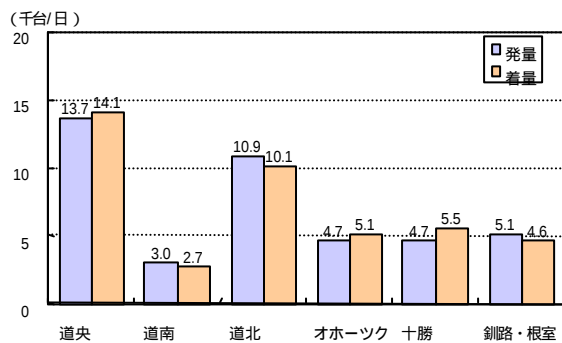
6 圏域別関連交通量の流動構成比 (休日・観光)



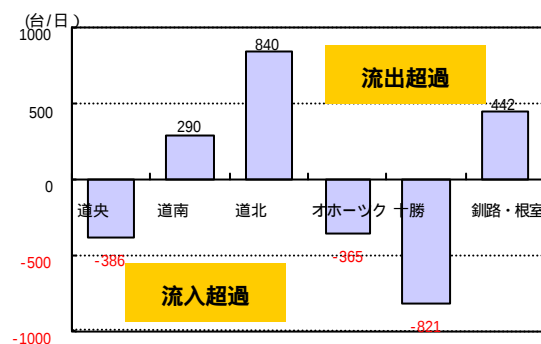
6 圏域の圏域間流動の内訳 (休日・観光)



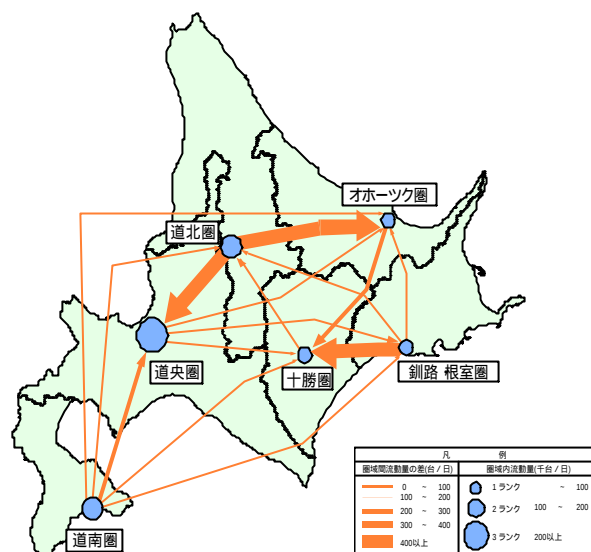
6 圏域別道内他圏域との流動 (休日・観光)



6 圏域別道内他圏域との流動の収支 (休日・観光)



6 圏域の圏域間流動の収支状況 (休日・観光)



出典：国土交通省「平成11年道路交通センサス」

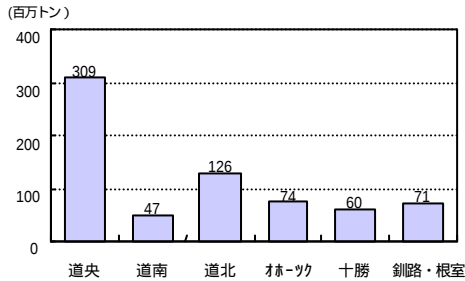
注：自動車交通の対象は軽乗用車、乗用車、バス。

観光交通の対象は休日の運行目的のうちの社交・娯楽、観光、送迎。

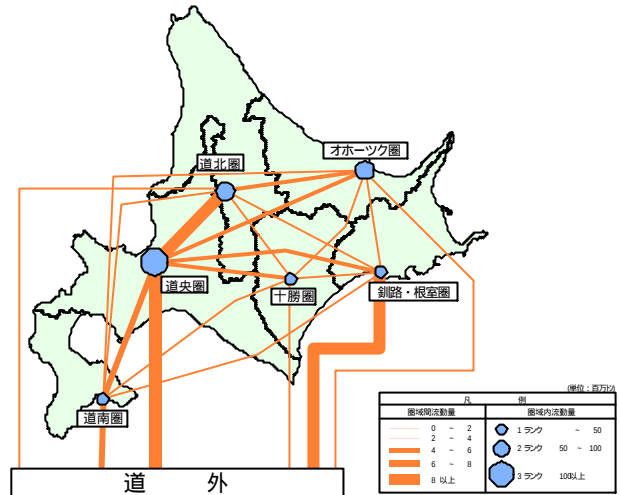
圏域間の物流

6 圏域間の貨物流動をみると、各圏域とも、道央圏との物流が多くなっている。各圏域と道外との流動をみると、道央圏、釧路・根室圏で主に移入が多くなっている。

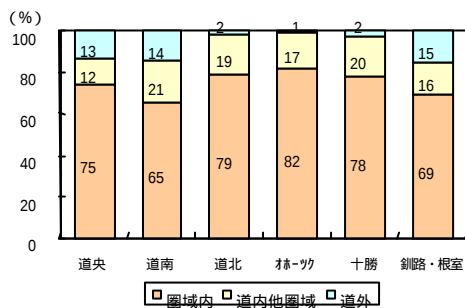
6 圏域別総物流量 (重量ベース)



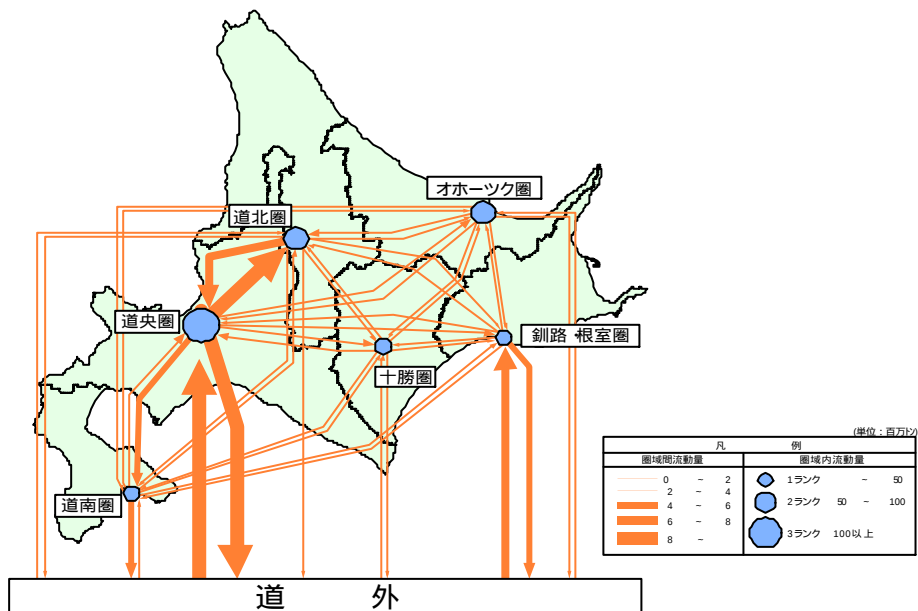
6 圏域の圏域内・圏域間流動状況 (重量ベース)



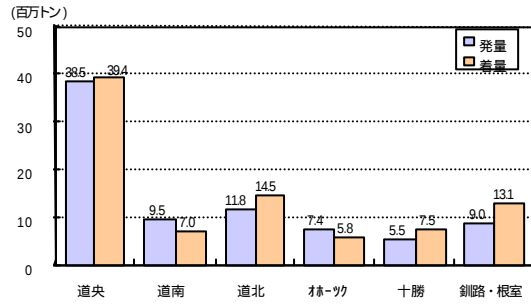
6 圏域別物流量構成比 (重量ベース)



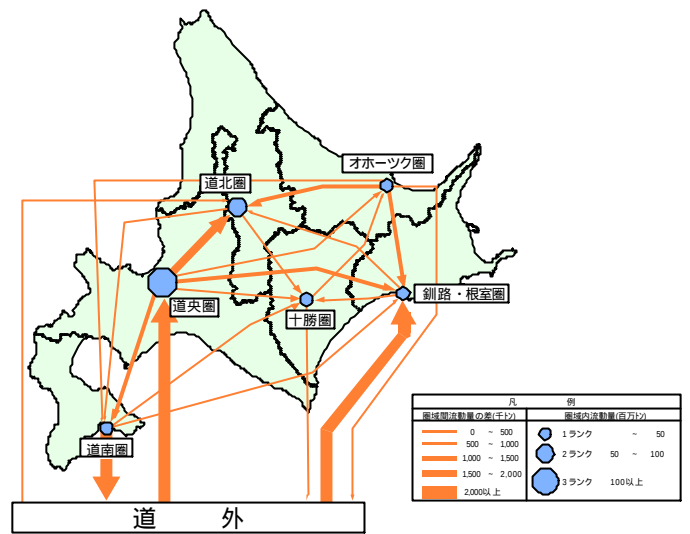
6 圏域の圏域間流動の内訳 (重量ベース)



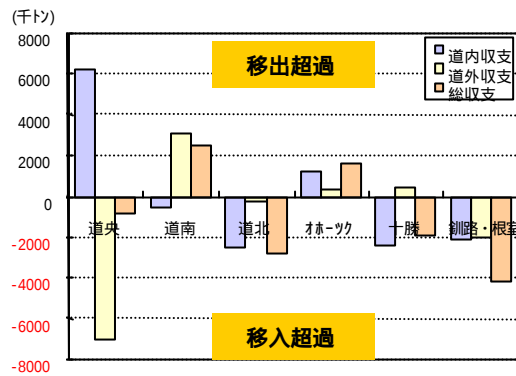
6 圏域別道内外他圏域との物流量 (重量ベース)



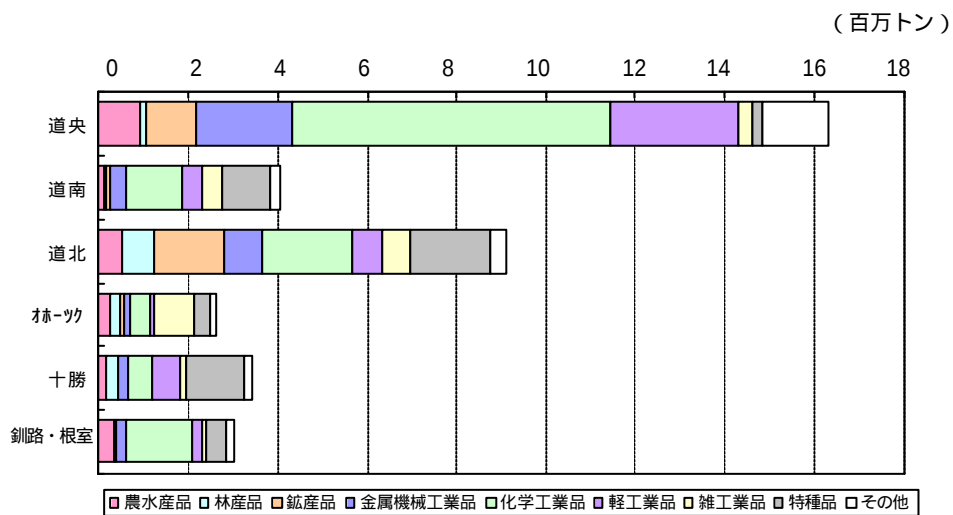
6 圏域の圏域間流動の収支状況 (重量ベース)



6 圏域別道内外他圏域との物流量収支 (重量ベース)



6 圏域から道外への品種別移出状況 (重量ベース)

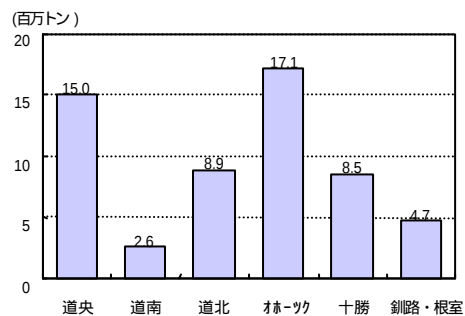


出典 :国土交通省「平成11年度貨物地域流動調査」

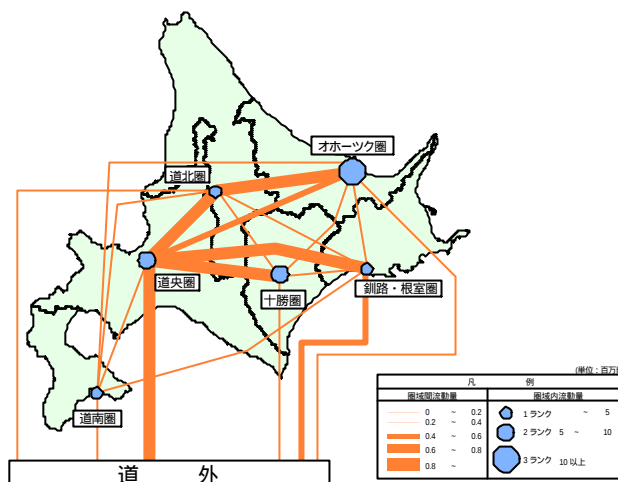
(参考) 農水産品の物流

農水産品に関する総物流量は道央圏、オホーツク圏で多く、道外との関係では、道央圏、釧路・根室圏からの移出が多くなっている。

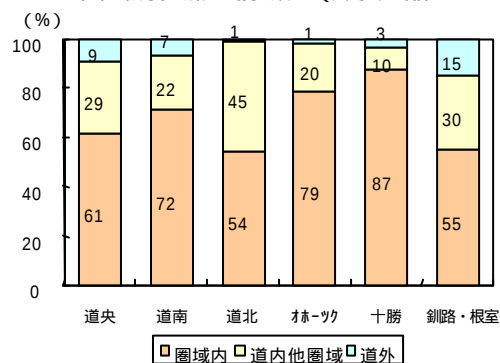
6 圏域別総物流量 (農水産品・重量ベース)



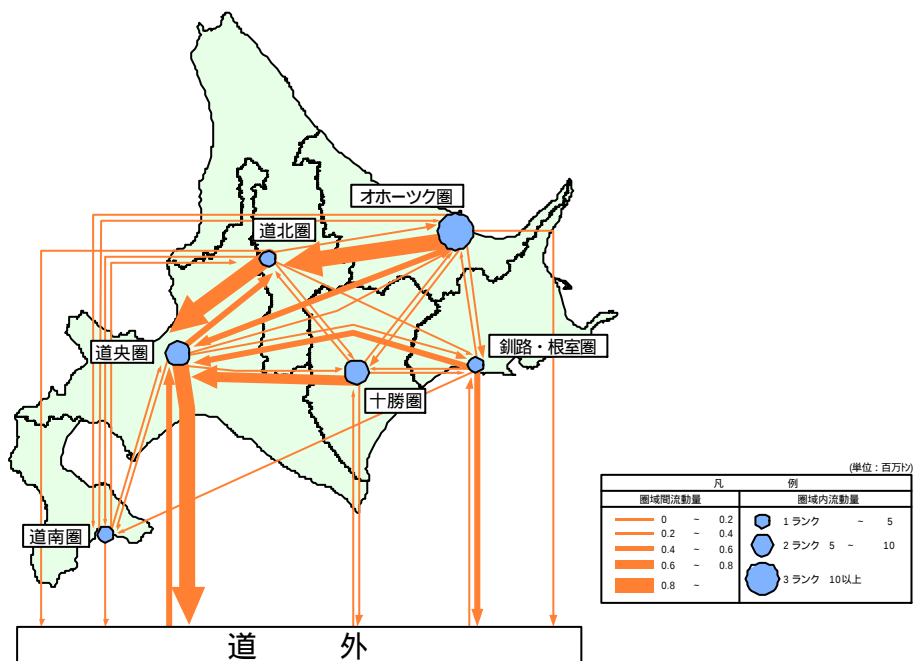
6 圏域の圏域内・圏域間流動状況 (農水産品・重量ベース)



6 圏域別物流量構成比 (農水産品・重量ベース)

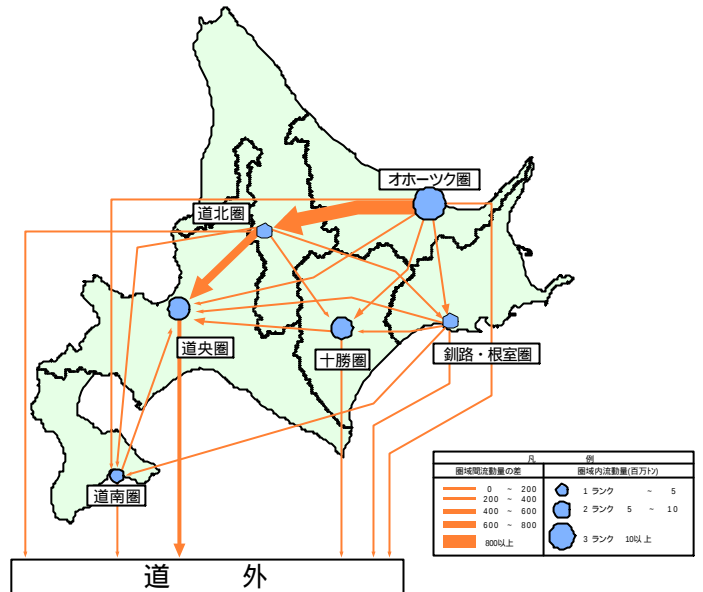
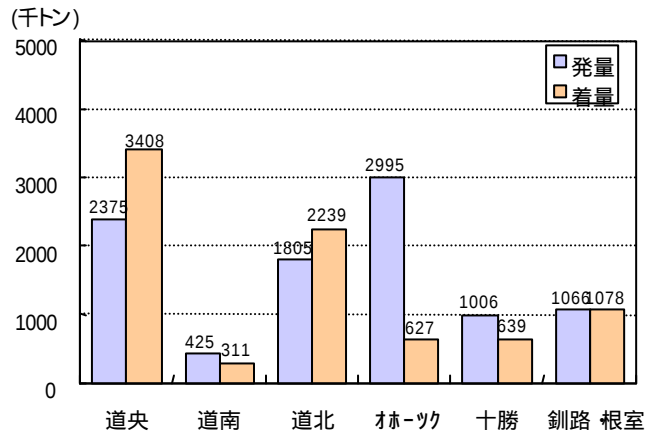


6 圏域の圏域間流動の内訳 (農水産品・重量ベース)



6圏域の圏域間流動の収支状況（農水産品・重量ベース）

6 圏域別道内外他圏域との物流量（重量ベース）



出典：国土交通省「平成11年度貨物地域流動調査」

注：物流は全て重量ベース

2 人口推計

(1) 圏域別等人口推計

2025年における北海道の将来人口については、2000年と比較し約10%減少すると推計されている。

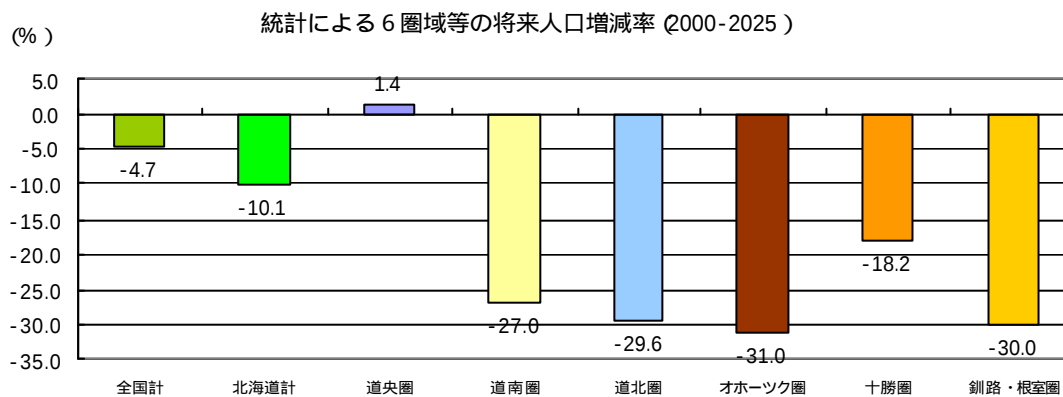
同じ2025年における6圏域別の将来人口については、道央圏で微増、道南圏、道北圏、オホーツク圏、釧路・根室圏が20%以上の大幅な減少になり、その結果、2025年における道内6圏域別の将来人口構成比をみると、道央圏の割合が増加する一方、他の圏域は減少するものと推計される。

人口推計

年	2000	2005	2010	2015	2020	2025
全国	12,691	12,768	12,762	12,644	12,413	12,091
北海道	568	567	561	549	532	511

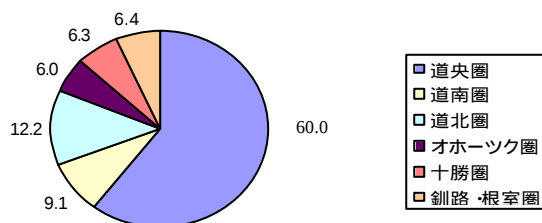
出典：国立社会保障・人口問題研究所「都道府県別将来推計人口」（平成9年1月推計）

注：2000年の実績値は、国勢調査速報ベース。

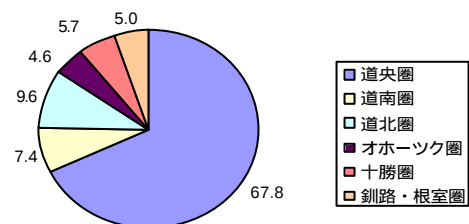


全道における6圏域の人口推移構成比(対全道(%))2000-2025年)

全道における6圏域の人口構成比(2000年)



全道における6圏域の人口構成比(2025年)推計値



出典 総務省「国勢調査報告」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(1997年1月推計)」をもとに国土交通省国土計画局作成。

注 1. 2000年の実績値は、国勢調査速報ベース。

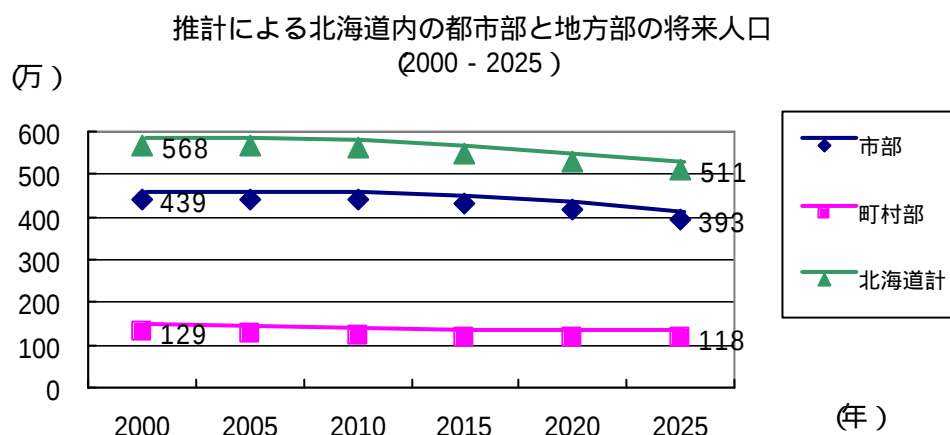
2. 将来推計値は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(1997年1月推計)」をもとに国土交通省国土計画局推計。

3. 将来の社会増減率は、1990年～1995年の移動率を固定して用いた。

4. 全道における6圏域の人口構成比については、四捨五入の関係で100にならない場合がある。

(2) 都市部地方部別人口推計

都市部と地方部別に将来人口の推移をみると、都市部・地方部ともに、ゆるやかに減少するものと推計される。



出典 総務省「国勢調査報告」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(1997年1月推計)」をもとに国土交通省国土計画局作成。

注 1. 2000年の実績値は、国勢調査速報ベース。

2. 将来推計値は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(1997年1月推計)」をもとに国土交通省国土計画局推計。

3. 将来の社会増減率は、1990年～1995年の移動率を固定して用いた。